

S S T L

NO. 66 2020. 2. 14

職場参加ニュース

障害者のためだけでなく
障害のない者のためにも

数合わせより 共に働く仕事合わせを



12月8日(日)、越谷市中央市民会館での「共に働く街を創るつどい2019」を開催。

「研修を受けなくていい」と言ってくれた先輩が組合員だった



パネリストのトップは、埼玉県庁の正規職員で聴覚障害者の清水克彦さん。

県の障害者雇用要綱にある「配慮に努めるものとする」という記載と改正障害者雇用促進法の「合理的配慮」^①

とは似て非なるものだと述べる。その鋭い感覚の底には清水さんの小学校時代からの体験がいまにつながっていることもよくわかった。

地域の学校でひどいじめを受けた時、非常ボタンを押して大騒ぎになった。全寮制のろう学校に転校したら、知的と聴覚の重複障害の子が同室で、その子が夜トイレに行くたびに付き添わねばならず苦勞した。悩んだが、その子は幼いころ言うことをきかないとトイレに閉じ込められた体験がトラウマになり、トイレのドアを閉められないのだと後に知った。自分の非常ボタン事件と重ね合わせ、説明できないということには何かSOS、伝えたいことが逆にあるんだとわかった瞬間だった。

「やさしい」という言葉の意味も自分はずからず、手話を学んで初めて知った。社会人になって初めて研修があったが、介護なしで職務遂行できるは

ずだし、税金の無駄遣いになるからと手話通訳を付けてくれなかった。

それで自分は研修を受けず仕事をした。その時、研修を受けなくていい、一緒に働こうと言ってくれた先輩が組合員だったので、自分は組合に入った。

現在は研修に手話通訳が付くが職場内や外部での手話の普及、電話リレーサービスの導入などは、今後の課題。

傍聴型コミュニケーション(健聴者同士でも手話を併用することで、傍にいる聴覚障害者が状況を理解できる)も重要だ。

車いすの県職員が雨の日に休むことが多い。濡れるから。駐車場に屋根を設置するよう求めているが、工事費用が高いからと認められないままだ。

「くらしの質」を問うことは「仕事の質」を問うこと



NPO 法人やまぼうしの伊藤勲さんの「入所施設から地域へ」に始まり、そのベクトルではなく「地域から施設もひっくり返して変えてゆく」運動になってきた歴史もすごい。その蓄積の上に、社会が直面するプラスチックリサイクルの事業委託をめぐる、せめぎあいの最中にあるという。

リサイクル施設全体は一般入札にかけられているが、その中のプラスチックごみ選別部門を市はやまぼうしが障害者ほかの就労困難者が共に働く場として想定している。やまぼうしは共に働くための条件を入札参加の全企業に示しているが、その条件に対し明確な答えを示さない企業が第1位になりそうな情勢で、元請け段階で共に働く条件が確保されなければやまぼうしは下請けになるつもりはない。

やまぼうしは、自分たちが生きるための営みが仕事と考え、就労生活支援センターの名も「くらしごと」と付けた。いま山梨・三多摩エリアで「ミレット(雑穀)ロード」と名付け、F(食)、E(エネルギー)、

C(ケア)の自給圏構想を考え合っており、くらしの質を問うことはしごとの質も問わねばならないという視点で、今回のプラスチックリサイクル事業について考えているという。

「簡単な仕事でいいじゃない」に腹が立った



雇用率代行ビジネスで高収益をあげる「エスプールプラス」問題を世に問うた毎日新聞社会部記者の山田奈緒さんは、軽度の知的と中・重度の聴覚の障害をもつ姉と同じ地域の学校で育った子ども時代から、長じて姉が特例子会社で心を病み、離職せざるをえなくなった過程での就労支援関係者の自己責任的な言動に疑問をもったことが原点にある。

2014年にエスプールプラスの農園のことを知ったが、巨大なビニールハウスで、障害者が連れて来られて、水撒いて何するでもなくぼーっとしている人たちがいる光景は、やはり悲しかったし、気持ち悪いなと思った。でも聞くと、通ってくるだけで最賃が保障され、「よかった」、「ありがたい」という家族や福祉関係者もいた。その時すぐに記事にはできなかったが、こんな気持ち悪いビジネスは2、3年したら減るのではないかと思っていたが、「障害者は雇いたくないがコンプライアンスは重視」という企業ニーズにマッチし、大きく膨れ上がった。しかも協定を結ぶ自治体も現れた。

疲れている人が休息しながら働いて10万円ならこういうのもいいかと思ったが、協定を結んだ行政担当者の「汗水流さないでいいから」とか、企業の「知的障害や精神障害の人と働くのは難しいですよ」と最初からあきらめている姿勢、何よりも「簡単な仕事でいいじゃない」という関係者の言葉に腹が立った。特に農園の指導員さんの的な役割の人が、出来すぎた苗をまびく作業を全部やっていたので、

一緒にやらないんですかと訊くと、「いやあの子らには無理だから」と。時間がかかるかもしれないと一緒に働こうという気がない。障害者も「楽でいいや」と思うかもしれないが、そうするとまた障害者のイメージが悪くなる、悪循環だと語る。

清水さんの話を聞き、駐車場の屋根は車いすの職員だけでなく、県庁を訪れるベビーカーの親子にとっても必要だと思ったと山田さん。

「ぼくに仕事をください！」



就労移行支援利用者の佐藤秀一さんは15年にわたる工場労働の経験があり、その後脳梗塞で障害が重くなったが、労働のリアリティを身にまとっているから、現場に行くととたんに意欲がみなぎる。先日、高齢者施設で食堂の椅子をテーブルに上げて掃除機とモップがけをやり、ベランダも掃除する実習をやった。残念ながら就職にはつながらなかったが、働きたかったという。

そんな佐藤さんの職場実習に同行した支援員の大塚眞盛さんは、バス停から実習先まで歩くのも佐藤さんにはかなり大変で、後半は車を使ったこと、椅子をテーブルに上げたり、モップの水を切ったりするのは難しいので代わってやったという。佐藤さんと自分のセットで一人分という気持ちでやったが、事務長さんから見ると納得できないようだった。佐藤さんが足がもつれてくると椅子で休み、その間代わりにモップが

「介助付きの働き方を自治体公共サービス現場で可能にしよう」



けすると、事務長から「本人にやらせて下さい」と注意され、「そんなに休憩を取ってはいほかの職員に示しがつかない」と言われる。

大塚さんは長年特別支援学校の教員だったが、佐藤さんと同じような障害の生徒は通所や入所の施設に進むのがほとんどで、これほど積極的な人を見たのは初めてだという。大塚さんは、かつて青い芝の重度障害者たちが「生きることが労働だ」と言ったことを思うと、エスプールの障害者が難しい仕事をやらなくてもいいのではとも思うが、社会の基本として幼いころから共に学び育ち共に生きる関係が希薄になっている状況を問い直してゆかねばと痛感する。そんな中で大塚さんは、令和新撰組の木村さんが提案している介助付きで働く地平を、佐藤さんと共に切り開きたいと語る。その現場として、自治体の公共サービスを想定し、そのありかたを問う。

佐藤さんはコメンテーター一席に向かい、「小田さん！山川さん！ぼくに仕事を下さい」と訴えていた。

配慮が出来ているか



コメンテーターの越谷市人事課副課長・小田哲郎さんは、パネリストたちの重い体験を聞き、用意した報告を述べるのが

憚られたと率直に述べる。聴覚障害者を新規採用したが、研修などで十分配慮出来ていたか、車いす使用者とも一緒に仕事をしているが十分配慮出来ているか反省している、一緒に働く職員が理解と知識を深めていきたいという。

自治体自らの課題として



越谷市障害福祉課副課長・山川洋次郎さんは、共に働く社会を実現するために自治体がサービスの提供はもちろんだが、自らの課題として主体的に取り組むこと

の重要性を改めて学ばせていただいたと語った。

官製ワーキングプアの
拡大を懸念しつつ



会場からの
指定発言者で
越谷地域公共
サービスネッ
トワーク議長
の山下弘之さ
んは、来春から

全国の自治体で実施される会計年度任用職員制度が、
障害者雇用の新たな波ともなりつつある非正規公務
員の現状をさらに厳しくするのではないかと警鐘を
発した。

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※

清水さんが「とてもうれしかった」と語った手話が
できる上司の言葉、「聞こえない人のために手話を学
んだんじゃない。職場で手話が必要なんだから、組織
としてそんなことあたりまえだろう。」が、心に残る。
コミュニケーションも、合理的配慮ということも、障
害者のためではない。すべての人のためなのだ。



コーディネーターを務
めていただいた朝日雅也
さんのまとめ—いろん
な壁があるが、壁は自分
が自分を守るために作っ
て来た面もあり、「共に」と
「働く」への根本的な問

いかけが問われる。「数合わせ」でなく「仕事合わせ」、
「暮らし合わせ」を！と。

「今日のつどいをはやりの言葉を使わせていただき、
ワンチーム」ということでまとめさせていただきたい
と締めくくった。



パネルディスカッションを
終えた後、恒例の「自治体提
言」を「世一緒」や「就労移
行支援・世一緒」の障害者達
が読み上げ、つどいを終え
た。総合司会の野島久美子

さん、ご苦労様でした！

2019年度会費、寄付、協力会費を納入いただきました(五十音順、敬称略)

【2019年度会費】

会沢完、青木繁明、阿久津康仁、朝日 雅也、石田貴美子 伊藤紀康、伊藤峰子、今井 和美、
上野豪志、内野かず子、NPO 法人共に生きる街づくりセンターかがし座、大坂富雄、大武 昭、
大塚眞盛、沖山稚子、尾谷英一、黄川田仁志、木下恭子、くらしセンターべしみ、癸生川新一、
越野操、小森陽子、佐々木洋子、佐藤恵美子、佐藤秀一、澤則雄、CIL わらじ総合協議会、清水
泉、清水泰代、鈴木照和、精神障害者の自立生活をすすめる会、関一幸、莊子敏一、高瀬勇、竹
迫和子、田島玄太郎、田中利昌、巽孝子、巽優子、谷崎恵子、津崎悦子、友堅由紀恵、中山佐和
子、並木理、贄田俊之、西陰勲、野村康晴、長谷川颯、幡本洋子、原和久、原田真弓、樋上 秀、
日吉孝子、前田直哉、正木敬徳、松田和子、松田典子、松山美幸、水谷淳子、谷塚祥子、山川百
百合子、山崎かおる、山崎 有子、山崎泰子、山下浩志、山田裕子、山本正乃、吉田久美子、吉原
広子

【寄付】

イオンせんげん台店、大家けい子、岡本信子、小野達雄、倉橋綾子、栗原彬、越野操、莊子敏一、
関一幸、直井利雪、贄田俊之、野村康晴、田島玄太郎、平野栄子、水谷淳子、谷塚祥子、山崎有
子、山下浩志、山下弘之、吉田久美子、この他匿名の方からもいただきました。

【かきくけプロジェクト協力会費】

石井紀章、贄田俊之、野村康晴、松山美幸、

職場・地域ひろがりつうしん

●越谷版よ～いどん！110人達成！



生活クラブ生協越谷ブロック版「よ～いどん！(市民事業活動寄付制度)」で12月27日の締め切りまでに、すいごごカフェの年誌作成資金として、110人から寄付の申し込みをいただきました。PRに努めてきたLove Shirakobato プロジェクトのメンバーがお礼に回っています。

ほっと越谷の市民公募事業で体験語る



1月18日、越谷市男女共同参画支援センター「ほっと越谷」が市民団体から募集した男女共同参画の講座として、世一緒の障害者スタッフ・友野さん、水島さんの人生体験を語る機会をいただきました。

越谷にぎわいの会の水辺の市5年こえ



1994年8月24日第三種郵便物承認

越谷・水辺の市が始まったのは、市役所裏の葛西用水沿いに市がウッドデッキを設置し、そこをにぎわいの場にしたいという意向があったことと、その2014年に埼玉で全国協同集会在開催され、越谷市内でワーカーズコープ、ワーコレ等や当会の仕事おこしのつながりができたことも背景。こじんまり続けて来た水辺の市も5年超。主催のにぎわいの会新年会は2月26日(火)です。

●水上公園春の花壇大事に育ててます



県営しらこぼと水上公園の花壇はパンジー、ビオラの花苗を11月いっぱいかけて植え終わり、現在厳しい冬の霜や風とつきあいながら、人も花も一緒に春へのウォーミングアップ中です。水上公園では現在プールがマス釣場となっており、週末にはフィッシングのイベント等が行われるなど、にぎわっています。お出かけの際には、花壇に健気に咲く花たちも見てやってください。

●たそがれ世一緒も3年半になって



2016年7月に始まった毎週木曜16:00~19:00、職場参加ビューロー世一緒で、ノープログラムのひとときを過ごす「たそがれ世一緒」。

管理人に一人暮らし30年余の障害者・樋上秀さん。補助者として、40年前市のケースワーカーとして家の奥で日々を送る障害者達に出会い、一緒に街に出ようとわらじの会初期の活動に関わった経験のある正木敬徳さん。ボランティアとして自分が育てた野菜等を提供し100円食費で夕食を調理して提供している鈴木照和さん。この3人プラス常連数人に、時々寄る人や珍しい参加者などがまじって雑談。生活や仕事の相談や、スマホの使い方等の話題も。

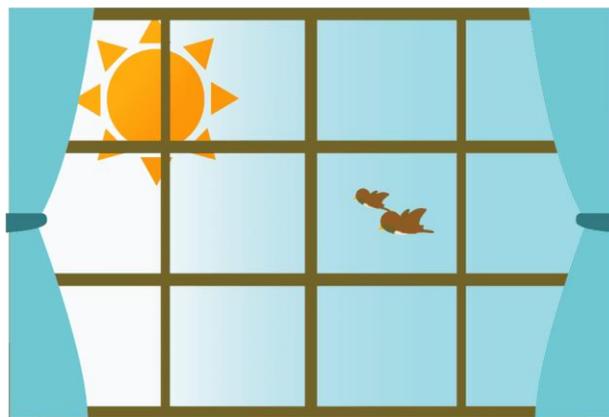
発足時は他の曜日にも開きボランティアによる講座も考えたが、すいごごカフェが始まりその役割を。

現在の雰囲気は「大人食堂」。あなたも一度どうぞ。

そろそろと

まちに出始めて

石丸 洋介



就労移行「世一緒」の窓から

私石丸洋介は、せんげん台世一緒に通所して4か月弱になります。

それ以前は母や知人の介護？手伝を一年半やっていたほぼ家にこもりきりで力も収入もなく色々考え、単発の仕事や警備員の仕事の面接に行ったりもしましたが不採用で困っていました。

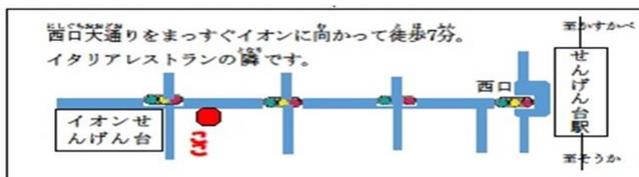
脳裏に越谷の世一緒の内野さんが言っていた就労移行支援事業所せんげん台世一緒が浮かび、そこに入所する事が出来、自分に合った場に入りました。

今では色々作業し小銭入れや工作では季節によってサンタや連獅子をおり紙で作ったり世一緒の利用者皆一生懸命、作成した品物を販売して売れた時や褒めて頂いた時はやりがいと入所してよかったですと思いました。

又逆に免疫力が無いので風邪を引いたり迷惑をかけたりしますが、現在は日々充実して一日一日楽しいです。今後も体、仕事を大事にし頑張っていこうと思います。

就労移行支援事業所

世一緒 yoisyo



一社・埼玉障害者自立生活協会 連続講座「ハコのない施設になってない？」地域巡業

第6回「職場参加」—支援・調整付きで働く—職場参加「史跡」めぐりと多様な事例紹介

連続講座「ハコのない施設になってない？」地域巡業は、「自立生活協会」に関わる県内各地の団体が、さまざまな障害福祉サービスを活用して障害者支援を行う中で、個々の障害者が支援の網に囲い込まれ、地域の他者たちからは見えない存在になっていないか、あるいはその逆にサービスのユニークな活用法や自分達も気が付かない面白つきあいが地域の中で育っているかも・・・といった公開研究を行うシリーズです。当会はその第6回目を担当します。参加者は20名前後を想定しています。

「職場参加」はなじみがない言葉と思いますが、船後、木村参議院議員らが訴えている「重度障害者の介助付き就労」もその一つです。介助や支援や調整がないために職場に加わることを拒否される事例は「重度」に限られません。当会は介助や支援や調整付きでの雇用やアルバイト、職場体験などを長年試みて来ました。その事例と関連する「史跡」見学、協力関係にある団体の紹介などを行い、感想やご意見をお聞きしたいと思います。

日時：2月14日(金)13:00-16:00

集合：職場参加ビューロー世一緒 越谷市東越谷 1-1-7 須賀ビル 048-964-1819

(二手に分かれ「史跡」めぐり)

会場：生活クラブ生協越谷生活館 越谷市東越谷 3-6-23 048-965-6725

内容：1. ワーコレ「たのしい輪」 2. 重度、ひきこもり、病院・施設、老化事例
3. 一人一言

資料代：600円

主催：一社・埼玉障害者自立生活協会

連絡先：koan@mbk.ocn.ne.jp FAX:048-737-1489 携帯 090-4524-1882 (今井)

2019年度 共に働く街をめざす提言をまとめました

2019年12月8日

市長

様

NPO法人障害者の
職場参加をすすめる会
代表理事 山崎 泰子

埼玉県越谷市東越谷 1-1-7

職場参加ビューロー世一緒内

2019年度共に働く街をめざす提言

当会の日常の取組と2019年12月8日に開催された「共に働く街を創るつどい2018」の成果を踏まえ、下記の通り提言を行います。

記

① 2013年の学校教育法施行令改正により、22条の3該当者に限り特別支援学校への就学も可能という扱いとなり、地域でのインクルーシブな教育を基本に保護者の意志を尊重し、総合的判断により就学先を決定するよう定められました。しかし、児童・生徒が減り続けているにもかかわらず、特別な教育の場へ就学する子どもだけは増え続けている事態を是正するために、貴市として共に学ぶことを積極的に進める環境整備が急務であると考えます。

② 障害者活躍推進計画の作成指針に基づき、貴市として、作成検討・推進体制への障害者職員の参画、障害者本人の希望も踏まえた業務、職場配置、募集・採用における不適切な取扱いの是正、意欲・能力に応じた非常勤から常勤への転換促進、任期終了後も引き続き就労できるような配慮、本人の希望を踏まえた研修等の実施、職場介助、通勤への配慮等の具体化が重要です。

③ 厚労省は障害福祉計画の「福祉施設からの一般就労」の数値目標を、就労移行、就労A、就労Bごとに設定するよう改める方針ですが、重要なことは福祉施設からの地域への参加です。貴市として、介護系施設も

も含めて、施設外就労、職場体験、施設を利用しない日のアルバイト等の実態把握を行い、その事例を紹介するとともに、施設が地域での多様な働き方を支援できるよう側面から応援することが大事です。

④ 越谷市の障害者地域適応支援事業は、市内の障害者施設、院内デイケア等から利用者が職員等の支援を受けて、市役所をはじめとする公共施設や民間企業の職場体験を行う事業ですが、市外からの通所・通院者は利用できないという条件が参加のハードルとなっています。隣接自治体においてもこうした事業に取り組むとともに、自治体間の協力・連携によって、隣接自治体からの利用者が相互に利用し合える環境を共に創ってゆくことが問われています。加えて、次のステップとして上記③の福祉施設等からの多様な働き方を促進するために、公契約条例を生かす方策の検討が問われています。

⑤ 障害者や慢性疾患の人、子育て・介護等に追われている人、ひとり親、ひきこもりがちな若年者、生活困窮者、中高年齢者等の就労困難者が増え続けています。国レベルでも労働者協同組合の法制化を準備中ですが、多様な就労困難者自身が共同して事業を立ち上げ、自ら運営し共に働く労働統合型社会的企業について、貴市として起業支援、協働、事業委託などを進めることが、これからの地域社会の課題を解決してゆく上で極めて重要です。

上記の事項に関し、貴市において障害者計画、障害福祉計画や高齢者保健福祉計画、介護保険事業計画、子ども子育て支援事業計画、教育振興基本計画、地域福祉計画、総合振興計画等の見直しの際に、共に学び、共に暮らし、共に働き合う街づくりの視点が反映されることを強く要望します。

職場参加をすすめる会

2020.2~2020.5 カレンダー

(2020.1.27作成)

2020年2月			2020年3月			2020年4月		
日	日中行事	ほか	日	日中行事	ほか	日	日中行事	ほか
1日	土		1日	日		1日	水	職場会議 当番会議 さんぽん舎ーサークル
2日	日		2日	月		2日	木	たそがれ
3日	月		3日	火		3日	金	さんぽん舎ーサークル しらべと音
4日	火		4日	水		4日	土	
5日	水		5日	木		5日	日	
6日	木		6日	金		6日	月	
7日	金		7日	土		7日	火	
8日	土		8日	日		8日	水	
9日	日		9日	月		9日	木	
10日	月		10日	火		10日	金	
11日	火		11日	水		11日	土	
12日	水		12日	木		12日	日	
13日	木		13日	金		13日	月	
14日	金		14日	土		14日	火	
15日	土		15日	日		15日	水	
16日	日		16日	月		16日	木	
17日	月		17日	火		17日	金	
18日	火		18日	水		18日	土	
19日	水		19日	木		19日	日	
20日	木		20日	金		20日	月	
21日	金		21日	土		21日	火	
22日	土		22日	日		22日	水	
23日	日		23日	月		23日	木	
24日	月		24日	火		24日	金	
25日	火		25日	水		25日	土	
26日	水		26日	木		26日	日	
27日	木		27日	金		27日	月	
28日	金		28日	土		28日	火	
29日	土		29日	日		29日	水	
30日			30日	月		30日	木	
31日			31日	火				

の中は、リハビリを兼ねた1~3時間内の屋外のアルバイトです。グループでやるので、初めての方でも大丈夫です。は、素焼きの鳩笛の絵付けと、その普及・販売のための研修や営業活動です。は、障害のある人や他の人々が日替わりゲストとなって、暮らしや仕事を語り継ぎます。あなたもどうぞ！

○茶色の字のスケジュールは、主に連携団体の主催行事で、一緒に参加できるもの紹介します。○ほかのスケジュールは、主に小グループでの講座やミーティングです。詳しい内容についてはお問い合わせください。

すいごごカフェ 2/5~2/26 1時半のゲスト



2月5日(水)

清水 泰代さん

生活クラブ越谷くわい支部

生活クラブと子育て

ピープルファースト(知的障害者である前に人間だ)になれば「親である前に人間だ」。川があり町があり村があり他者がいて生活が。そこで子育ての希望と壁とは？

2月12日(水)

宮部 幸絵さん

ケアシステムわら細工

なぜ障害者の介助を

ふつうの会社員で音楽サークルで余暇を楽しんでいた日々から重度障害者が地域で生きる介助に関わりさまざまな障害者、介助者の関係の調整役に変身した回路とは

2月19日(水)

黒田 正巳さん

職場参加ビューロー世一緒

露天商と市民活動の日々

少年期の九州の通勤寮、成人し埼玉へ戻り就職した企業でのパワハラ、退職を経て、出会った露天商での厳しいがやりがいある仕事、また市民活動での関係の広がりとは

2月26日(水)

工藤 幸一さん

くおーれの風代表

26日はせんげん台世一緒

人生の半分が統合失調症

生きる権利、自由な権利を持ち、晴れの日も雨の日もある。前へ進め。越谷市の精神医療と福祉を考える会「くおーれの風」代表。

一社・埼玉障害者自立生活協会 連続講座「ハコのない施設になってない？」地域巡業 第6回 越谷で予定

「職場参加」一支援・調整付きで職場へ

—職場参加「史跡」めぐりと多様な事例紹介

日時：2月14日(金)13:00-16:00

集合：職場参加ビューロー世一緒 越谷市東越谷1-1-7 須賀ビル 048-964-1819
(二手に分かれ「史跡」めぐり)

会場：生活クラブ生協越谷生活館 越谷市東越谷3-6-23 048-965-6725

内容：1. ワーコレ「たのしい輪」 2. 重度、ひきこもり、病院・施設、老化事例
3. 一人一言

資料代：600円

主催：一社・埼玉障害者自立生活協会

連絡先：koan@mbk.ocn.ne.jp FAX:048-737-1489 携帯 090-4524-1882 (今井)

世一緒スタッフ日記



たまに来てます

かんのひでよし

かんのひでよしさんわあしがいいたかったのであまりよいしよにこれませんでした。だけれどもきょうわはじめてきました。このまえわかせさんのはなしおきてました。やく1時ぐらいきていました。そいで200円でカレーらいすおたべました。おいしかった。いじょう。

新たな仕事場で

伊藤峰子

今やっている仕事は、にゆうさんドリンクをラップをはがしてかごに入れる仕事をしています。仕事の中の仕事になってからなにをどうやっていいかわからず今の仕事をして来ました。やつと人に聞けるようになりました。わからない事があっても人にきちんと教えてあげられるせんばいになりたいです。

毎日充実

萱場 由梨

介助を長ねんやっています。いいヘルパーさんになるようにがんば

世一緒では、障害や病気その他の状況による働きづらさを、他の人々と共有し生きるために、世一緒に関わっている人たちを「スタッフ」と呼んでいます。サポーター(非常勤やボランティア)の支えを受けて、世一緒の当番(ピアサポート実習)や「語る会」、身近な地域で必要とされる仕事(花壇整備、除草、ポスティング)のグループワーク等もしています。元スタッフ等からの近況報告も紹介します。なお2018年4月からはせんげん台に就労移行支援事業所「世一緒」が開所しました。こちらは制度により定められた職員がおり、通所2年の間に一般就労への支援サービスを提供する場となっています。当会は定められた支援ももちろん、自主事業の世一緒(越谷)と連携して、多様な就労やピアサポートも可能な展開をめざします。

ここに来て思った事

酒井 豊

世一緒に通う様になって、少し気持ちが楽になった。周囲の方々に協力していただき、うつの症状も減って、革細工などの手作業や、駐車場の清掃等を皆さんと一緒に行動する内に、コミュニケーションがとれる様になるにつれて、自信も付いて来て、なるべく外に出る様にしよう、と努力する事が出来ると心がけています。これからは就労を目指していきたい。

今の事

新井 里佳

今私は、千間台世一緒にかよっています。いろんな事をやって楽しいです。1回実習6日間しました。老人ホームのつどい、はいぜん、清掃、洗いものなどをやりました。おばあちゃんやおじいちゃんとお話をしたり、おりがみ、ぬり絵をやらせてもらいました。楽しかったです。活動

なれてきた

石川 利明

せんげん台世一緒に通うようになった理由タバコ代とゲーム代をすこしでもかせげればと思いい、通いはじめました。さいしよは体力もなく通うのにしくはくしてました。2月ぐらいうすぎると。だいぶなれはじめて、今日では朝10時から4時まで通えるようになりました。

けんしゅうちゅう

佐藤 秀一

僕はいまひのきそうでけんしゅうをしていきます。それにもしゅうかつたばわいそこで、はたらこうとおもっています。

今年の目標

水島 茂治

私の身体ついて今、ヘルニアの検査してたぶん二月中場ごろしゅじゅつして早く自分の身体がもとどおりになって、ふだんの生活にもどりたいと思います。手術がんばります。

下肢うつ滞性皮膚炎で

癸生川 新一

ことしは、あるいてかいものについてます。じてんしゃは、のりません。家からあるいて二時間から三時間かかります。だいたいまいにちです。かいものがおわるとねてます。足は、すこしづつよくなっています。なおるまで2年かかりそうです。

二〇一九年十一月十四日発行(毎月十二回 二と四と六と八の日)
一九九四年八月二十四日第三種郵便承認
発行人 埼玉県障害者団体定期刊行物協会 〒333-0851

川口市芝新町十五一九アステール藤野1F

